

## 現計画の振り返りと次期計画の施策の方向性

現計画の施策の柱・基本的方向性	主な施策	現計画における取組実績		現状	評価と課題				
			平成27年度			平成28年度			
<b>1 高齢者の社会参加・生きがいづくりの促進</b> <基本的方向性> 本格的な少子高齢社会においては、高齢者が「支えられる」だけでなく、社会を「支える」役割を担うことができるよう、社会参加活動の促進や就労機会の確保など様々な取り組みを進めていくことが必要です。高齢者が健康で生きがいを感じながら、社会参加していくための取り組みを支援することにより、地域で支え合う豊かな社会の実現を目指していきます。	<b>①社会参加活動の推進</b> ○せんだい豊齢ネットワーク組織運営支援（(公財)健康福祉事業団） ○老人クラブへの助成 ○老人クラブにおける友愛訪問活動の実施 ○シルバー人材センターによる臨時的・短期的な仕事のあっせん ○敬老乗車証の交付 ○豊齢カードの交付 ○ミニデイサービス「遊湯う倶楽部」の実施	活動団体 団体数 会員数 実施している地区 地区老連数 会員数 就業延日人員 契約件数 契約金額 交付者数 交付者数 実施箇所 延参加者数	35 団体 462 団体 21,298 人 45 地区 (全地区) 45 地区 (全地区) 2,538 人 227,009 人日 7,178 件 1,064,864 千円 106,963 人 15,087 人 5 箇所 188 人	34 団体 446 団体 20,352 人 45 地区 (全地区) 2,573 人 234,775 人日 7,315 件 1,093,995 千円 108,146 人 13,518 人 5 箇所 151 人	<b>●平均寿命の延伸</b> (28年版高齢社会白書) 26年実績：男80.50歳、女86.83歳 72年見込：男84.19歳、女90.93歳 <b>●高齢者人口の増加と生産年齢人口の減少</b> <b>●外出の頻度(28年度高齢者一般調査)</b> ほぼ毎日31.9% (25年度比+4.2ポイント) <b>●社会参加の状況</b> (28年度高齢者一般調査) 特に参加していない48.2% (25年度比+1.4ポイント) <b>●日常生活の不安</b> (28年度高齢者一般調査) 生活費のこと26.6% (25年度比+3.8ポイント)	<b>&lt;主な施策の評価と課題&gt;</b> <b>1 高齢者の社会参加・生きがいづくりの促進</b> <b>① 社会参加活動の推進</b> 老人クラブをはじめとする各種団体への支援やシルバー人材センターでの仕事のあっせんによる地域社会貢献活動の促進、敬老乗車証制度の運用による外出支援などを進めてきた。 老人クラブは、健康づくり、介護予防、ボランティア活動等を行っているが、近年は、生活意識の多様化等を反映し入会が少なく、会員数は減少の傾向にある。 シルバー人材センターは、就業の機会を通じて生きがいづくりや健康づくりにも寄与しており、平成28年度には契約金額が過去最高となるなど、今後もその役割が期待されている。 社会参加活動の推進に関しては、地域や社会における高齢者の役割が重要となる一方で、社会参加を行っていない高齢者の割合が高くなっており、地域における支え手の確保と生きがいづくりの双方の観点から、活動機会の多様化と参加しやすい環境づくりが求められている。 <b>② 多彩な生涯学習の展開</b> 豊齢学園や市民センター、老人福祉センターなどにおける各種講座の実施などを通し、取り組みを進めてきた。 市内8館の老人福祉センターでは、高齢者の活動の場として様々な「趣味の教室」や、高齢者の活動を支援する各種の講座を各センターで工夫しながら行っている。 今後とも高齢者が身に付けた知識を活かして地域や社会で活躍の場を広げられるよう、創意工夫を凝らした活動の展開が必要である。			
	<b>②多彩な生涯学習の展開</b> ○豊齢学園における生涯学習と社会貢献活動を担う人材育成（(公財)健康福祉事業団） ○老人福祉センターにおける高齢者の活動を支援する多彩な講座の実施 ○全国健康福祉祭（ねんりんピック）への選手派遣 ○シルバースポーツセミナーの開催（(公社)老人クラブ連合会） ○杜の都せんだい「元気はつらつチャレンジカード」による運動の奨励	修了者 在園生 「趣味の教室」 平均利用者数/回 選手役員数 延参加者数 交付者数	119 人 251 人 17.6 人/回 153 人 (山口大会) 1,941 人 2,784 人	123 人 243 人 17.2 人/回 157 人 (長崎大会) 1,858 人 2,776 人			<b>●日常生活の不安</b> (28年度高齢者一般調査) 自身や家族の健康のこと64.2% <b>●健康状態(28年度高齢者一般調査)</b> とても健康・まあまあ健康76.4% (25年度比+2.0ポイント) <b>●介護予防の取り組み状況</b> (28年度高齢者一般調査) 取り組んでいる43.5% (25年度比▲9.7ポイント) <b>●介護予防に取り組まない理由</b> (28年度高齢者一般調査) 介護予防に取り組まなくても日常生		
	<b>2 介護予防に積極的に取り組める環境の整備</b> <基本的方向性> 高齢になっても心身ともに健康で生きがいを感じながら積極的に社会参加できるよう、介護予防・健康づくりの取り組みを一層推進していく必要があります。 これまでの介護予防・健康づくりへの一人ひとりの取り組みや、多種多様な機関・団体との連携による取り組みに加え、今後はさらに、地域づくりの視点を持って環境づくりにも取り組んでいきます。	<b>①一人ひとりの介護予防・健康づくりの取り組み</b> ○通所型介護予防事業 ○介護予防訪問指導 ○地域包括支援センターによる介護予防教室 ○シニア向け栄養講座	参加者数(延べ) 訪問回数(延べ) 開催回数(延べ) 参加者数(延べ) 開催回数(延べ) 参加者数(延べ)	532 人 18 回 983 回 17,506 人 28 回 653 人				534 人 9 回 1,031 回 17,926 人 36 回 680 人	<b>2 介護予防に積極的に取り組める環境の整備</b> <b>① 一人ひとりの介護予防・健康づくりの取り組み</b> 通所型・訪問型による介護予防事業や、地域包括支援センターによる介護予防教室、シニア向けの栄養講座の実施を通し、取り組みを進めてきた。 通所型・訪問型介護予防事業については、訪問指導が減少しているものの、通所型介護予防事業は一定の参加がある。 地域包括支援センターによる介護予防教室については、参加者が着実に増加している。 シニア向け栄養講座については、調理実習を含む実践的な講座であり、参加者から好評を得ている。 介護予防については、高齢者の増加に伴い、要介護・要支援認定者となる可能性が高い高齢者も増加していくことが予想されることから、継続的に取り組んでいく必要がある。
	<b>②地域での介護予防の取り組みを推進するための環境づくり</b> ○二次予防事業対象者把握（生活機能評価） ○介護予防自主グループ育成・支援 ・サポーター養成研修 ・サポータースキルアップ研修	人数 実施箇所数・回数 実施箇所数・回数 サポーター数	9,488 人 7 箇所・67 回 7 箇所・49 回 1,135 人	9,522 人 5 箇所・68 回 7 箇所・48 回 1,151 人				<b>●介護予防に取り組まない理由</b> (28年度高齢者一般調査) 介護予防に取り組まなくても日常生	

	・グループ育成数	(延べ) 新規グループ数 活動グループ数 会員数	16グループ 181グループ 4,230人	14グループ 192グループ 4,806人	活に支障がないから 28.9%  ●新しい総合事業の開始	<p>② 地域での介護予防の取り組みを推進するための環境づくり</p> <p>基本チェックリストによる介護予防の必要性の高い方の把握のほか、介護予防自主グループの育成・支援による担い手づくりや、介護予防月間のイベント開催による普及啓発により、取り組みを進めてきた。</p> <p>生活機能の低下している要介護・要支援状態になる可能性の高い方の把握については、着実に対象者の把握を行っている。</p> <p>介護予防自主グループの育成・支援については、自主グループが毎年増えるなど、介護予防の取り組みが定着してきている。</p> <p>介護予防の普及啓発については、11月を介護予防月間と定め、21の関係団体と協働・連携し普及啓発活動を展開した。</p> <p>地域での介護予防の取り組みを推進するための環境づくりについては、着実に事業を実施してきており、継続的に取り組んでいく必要がある。</p> <p>③ 一般介護予防の推進</p> <p>29年4月から実施の総合事業の一般介護予防事業に、介護予防把握事業、介護予防普及啓発事業、地域介護予防活動支援事業、地域リハビリテーション活動支援事業を位置づけ</p>
	○シニア向け健康づくり講座モデル事業	実施箇所数	3箇所	5箇所		
	○介護予防月間	参加者数(延べ)	10,262人	6,465人		
	③一般介護予防事業の推進					

評価と課題の総括	次期計画の施策項目
<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者の健康寿命を延伸し、生活の質(QOL)を向上するために、介護予防や社会参加は今後とも重要であるが、個人の価値観やライフスタイルの多様化等を背景に、高齢者一般調査の結果においては、介護予防に取り組んでいる方の減少や、社会参加をしていない方の増加が見られる。</li> <li>一方で、少子高齢化が進む中で、高齢者が社会の支え手となることに期待が寄せられており、高齢者が社会に参加し、活躍できる環境づくりがますます重要となっている。</li> <li>介護予防は、運動機能や栄養状態といった心身機能の改善に加えて、日常生活の活動を高め、社会への参加を促し、それによって一人一人の生きがいや自己実現のための取り組みを支援して、QOLの向上を目指すものである。</li> <li>心身機能の改善につながる介護予防の取り組みを引き続き進めるとともに、社会参加が介護予防の役割も果たす側面もいっそう重視しながら、個人の価値観や状況に応じた様々な活動の機会を充実することで、より多くの高齢者の社会参加を促進していく必要がある。</li> </ul>	<p>◇健康と元気でいられる環境づくり</p> <p>◇知識・経験や能力を生かして活躍し続けられる機会の充実</p>